

第1号で「これから1年間、月1回のペースで『校長通信』を発行していきます」と宣言しました。何とか5月の日付で発行できて胸をなでおろしています。

さて、今回は『言葉がもつ力』について考えてみます。

本校は明治44年、江沼郡立実科高等女学校として開校して以来、大正12年に石川県立大聖寺高等女学校と改称し、同年の石川県立大聖寺中学校設立を経て、昭和23年の学制改革により両校が統合され、石川県立大聖寺高等学校として現在創立113年目を迎えています。明治、大正、昭和、平成、令和と110年を超える歳月を南加賀地区の名門高等学校であり続けていることに畏敬の念を抱きます。この偉業を成し得ている理由の一つと考えられる「校是・校訓」の変遷をたどってみます。



中庭 平成2年建立の石碑

明治から大正にかけての実科高等女学校の校是は掛軸にある「保貞志以遂初」（貞志ヲ保子以テ初メテ遂ゲル）だと思われます。これは「貞志庵」とともに受け継がれています。大正後半から昭和初期の大聖寺高等女学校は「敬虔報謝」・「温良貞淑」・「質素礼容」・「明朗進取」・「健康勤勉」を校是とし、同じ時期の大聖寺中学校では「質実剛健」でした。そして戦後の大聖寺高校開校時には生徒代表が「健全明朗な校風」を目指すことを宣言し、のちに平成では「自主自律」と、時代による変遷がうかがえます。

現在、「文武不岐（ぶんぶふき）」を令和の新しい時代の校是として、その実践を重ねています。これは私の2代前の校長である土山樹一郎氏が自身の20年にわたる本校での勤務経験を踏まえて110周年を機に唱えたものです。「文武不岐」とは、勉学（文）と部活動などの課外活動（武）は切り分けることのできない一体化したものであって、勉学を頑張ると部活動に、部活動を頑張ると勉学に、相乗効果により良い影響と結果をもたらすものだという理念です。

『勝って笑顔で帰ってきてほしい』

これは5月24日に行われた「総体・総文壮行式」での激励の言葉として伝えたフレーズです。今年の私のテーマ「明日の子どもの笑顔のために」を意識して言いました。

その後、生徒会長が『「ことだま」効果を信じて「ポジティブな言葉」をかけ合いながら試合に臨んでほしい』と激励してくれました。



【今月のお気に入り】 総体・総文壮行式にて

校是「文武不岐」の精神と「ポジティブな言葉」で試合に臨むことで、私の激励の言葉が「ことだま」として実現されることを願っています。